

○「捕獲計画の達成に向け委員として取組」を協議

(南丹市南丹地区(鳥獣害対策)小委員会第4回会議)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他  
(農業委員会の  
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和1年10月7日
- 場 所: 南丹市役所2号館3F 302会議室
- 出席者: 委員8人
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。  
○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、有害鳥獣の被害を減少させ農地を守ることが重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 鹿、猪の捕獲後の処理(現状は、捕獲者が埋設している)が重労働なことが大きな課題となっており、委員会として処理施設の設置を市に要望
- 委員会として、多数捕獲して農作物被害を減らすため、各委員が担い手等に狩猟免許(わな免許)の取得を推進
- 檻やわな等捕獲器具等購入に対する市の助成等があるのか等研修する必要がある。
- 猟友会(加入が必要)と聞いが、加入しないで有害駆除をする方法はないのか。
- 行政等からの聞き取りや話し合いを進める中で、課題を一つ一つクリアして多数捕獲する仕組みを作ることが大切

4 活動結果

- 情報・意見交換 1 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援